

第1回宇宙産業部会 議事要旨

1. 日時：平成25年4月11日（木） 10:00-12:00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

松本部会長、中須賀部会長代理、池上委員、佐相委員、柴崎委員、下村委員、白地委員、谷所委員、西村委員、仁藤委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、國友宇宙戦略室参事官、前原宇宙戦略室参事官、野村宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、委員紹介の後、松本部会長より、部会長代理として中須賀委員が指名された。

(1) 内閣府における新たな宇宙開発利用の推進体制について

事務局から資料3に基づいて説明を行った。

(2) 宇宙産業政策を検討する視点について

(3) 宇宙産業部会の今後の検討の進め方について

上記の議事について、事務局から資料2、4、5に基づいて説明したところ、資料5「宇宙産業部会の今後の検討の進め方（案）」については、部会として了承された。

(4) 委員からの意見提出

佐相委員、柴崎委員、下村委員、西村委員、仁藤委員からそれぞれ資料6-1、6-2、6-3、6-4、6-5について説明した。概要は以下の通り。

[佐相委員]

○これまでの我が国のリモセン衛星は、技術実証が主目的であったが、今後はデータ提供の継続性、観測頻度、即応性を国が保証することが重要。実用に耐えるものとして8衛星以上を希望。

[柴崎委員]

○End to Endなサービスの海外展開を目指すべきであり、ビッグデータなど、宇宙からの観測を含めた多様な情報と、これらを活かす解析能力の開発が必要。

[下村委員]

○我が国の産業競争力強化には、測位衛星に続き、リモートセンシングによる

宇宙インフラの整備を行うとともに、競争力を有する商用通信衛星の開発が必要。

[西村委員]

○宇宙分野は、優秀な学生をエンカレッジする分野でもあり、測位、リモセン、通信・放送分野において、インフラの整備に加え、継続的な技術開発が必要。

[仁藤委員]

○衛星通信など、宇宙利用サービス産業は、国際競争力が激化している。このなかで我が国が競争に打ち勝つには、安価で高信頼性を持ち、長寿命かつ需要地に応じて可変することが可能な衛星の開発が期待される。

説明の後、委員から、以下のような意見があった。

○新興国など、どこにマーケットがあってどのように利益を上げていくのかという目標が、ビジネスの成立には必要。

○我が国の宇宙産業のあるべき姿を、国が示していくことが必要。

○東日本大震災の時の経験などを海外展開に活用できる点が多いと思う。

以 上